

## 三次市教育委員会会議録

- 1 日 時 令和6年8月21日(水)  
開会 10時00分  
閉会 15時50分
  
- 2 会 場 三次市役所本館 6階601・602会議室
  
- 3 出席委員 教 育 長 迫 田 隆 範  
委 員 小 根 森 直 子  
委 員 深 水 顕 真  
委 員 井 岡 直 美  
委 員 藤 井 皇 治 郎
  
- 4 出席職員 教 育 部 長 宮 脇 有 子  
教 育 部 次 長 豊 田 庄 吾  
教 育 企 画 課 長 渡 部 真 二  
学 校 教 育 課 長 藤 本 裕 佳 里  
学 校 教 育 課 主 査 山 本 和 典  
学 校 教 育 課 主 査 平 田 剣 士 郎  
教 育 企 画 課 主 事 平 奈 菜 巴
  
- 5 参 考 人 令和7年度使用中学校用教科用図書採択地区選定委員会
  
- 6 議事日程
  - (1) 議案第22号 令和7年度使用中学校用教科用図書の採択について
  - (2) 議案第23号 令和7年度使用特別支援学級教科用図書の採択について
  - (3) 議案第24号 三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定委員会委員の委嘱(追加)について

教育企画課長 ただいまから教育委員会会議を開催する。

迫田教育長 <挨拶>

教育企画課長 教育長に進行をお願いします。

迫田教育長 それでは、議事に入る。

本日はまず、議案第22号の審議の公開・非公開について確認する。

議案第22号は、令和7年度から使用する中学校用教科用図書採択に係る議案である。

昨年は、小学校用教科用図書の採択の審議について公開した経緯がある。

令和6年3月29日付けの文部科学省初等中等教育局長からの通知「教科書採択における公正確保の徹底等について」において、「教科書採択は、これらの採択権者の判断と責任により、綿密な調査研究を踏まえた上で、公正性・透明性に疑念を生じさせることのないよう適切に行われることが必要であることはもとより、採択権者である教育委員会や学校長は、採択結果やその理由について、保護者や地域住民等に対して説明責任を果たすことが重要となります。」と示されている。

また、同通知中の「教科書採択方法の改善について」において、「教科書採択については、教科書発行者に限らず、外部からのあらゆる働きかけに左右されることなく、静ひつな環境を確保し、採択権者の判断と責任において公正かつ適正に行われるよう努めること。例えば、教科書採択に係る教育委員会の会議を行うに際しては、静ひつな審議環境の確保等の観点から検討を行い、会議の公開・非公開を適切に判断するとともに、傍聴に関するルールを明確に定めるなど、適切な審議環境の確保に努めること。」と示されている。

このことから、本日の会議については、「静ひつな審議環境の確保」を前提に、三次市教育委員会傍聴規則に基づいて、傍聴を許可すること、また、傍聴に関しては、会議の録音・録画は認めないこととして、会議を公開したいと考える。

皆様にお諮りする。

異議ないか。

委員一同 ー異議なしー

迫田教育長 それでは、議案第22号については公開とする。

続いて、議案第23号については特別支援学級で児童生徒が使用する教科書採択に係る案件、議案第24号については人事案件のため、公開になじまないものとする。については、三次市教育委員会会議規則第14条第1項の規定により、議案第23号、議案第24号については非公開が適切と考えるかいかがか。

委員一同 ー異議なしー

本日の教育委員会会議について、傍聴の申し出がある。

傍聴の申出者は、三次市教育委員会傍聴規則第2条による傍聴の手続きを行っていることを認めたので、三次市教育委員会会議規則第14条第1項の規定により傍聴を許可することとする。

ー傍聴人入室ー

迫田教育長 静ひつな審議環境を確保することや公正性確保の観点から、本会議の録音・録画については認めないものとする。

迫田教育長 これから、議案第22号「令和7年度使用中学校用教科用図書の採択について」に入る。

本議案を審議するにあたり、参考人として、「令和7年度使用中学校用教科用図書採択地区選定委員会」3名の出席を許可したいと考える。

異議ないか。

委員一同 ー異議なしー

迫田教育長 それでは、選定委員3名の入室を許可する。

ー選定委員入室ー

迫田教育長 参考人には、本日の会議において、教科用図書採択に係る取組状況等につ

いて説明を行ってもらおう。

それでは、議案第22号「令和7年度使用中学校用教科用図書の採択について」事務局から説明を求める。

学校教育課長 それでは、議案第22号について説明する。これは、令和7年度に三次市内の中学校で使用する教科用図書について、選定委員からの答申を受けて審議し、採択するものである。選定委員会は、「三次市教科用図書採択地区の採択事務に関する規約」に基づき、調査員による教科書の専門的な調査研究を基に種目ごとに審議を行い、その結果について理由を付して答申を行う。これを受け、適正かつ公正な採択を行うものである。

審議に入る前に、三次市教科用図書採択地区選定委員会会長から、令和7年度三次市教科用図書採択地区の教科用図書の採択に係る意見についての答申書を教育長に手渡してもらおう。

会 長 一答申書手交一

学校教育課長 それでは、その答申に基づき、審議を求める。

なお、教科書採択に関わっては6月14日から6月29日において、教科書展示会を開催した。

市民の方から15件の意見をいただいている。

その意見文を本日資料としてタブレットに掲載しているので、採択にあたっての参考にさせていただきたい。

迫田教育長 それでは、今、会長から答申をいただいたので、令和7年度使用中学校用教科用図書採択地区教科書採択における経過報告の説明を求める。

会 長 資料1をご覧いただきたい。5月22日に教育委員会会議で「令和7年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の三次市採択基本方針」を決定され、5月31日に三次市教科用図書採択地区選定委員会の選定委員に委嘱された。同日以下のような中身で会議を行った。6月14日から6月29日まで、三次市立図書館で展示会を行った。三次市教科用図書採択地区の教科書調査員は、7月5日を期限として報告書を提出した。調査員によって調査されたものを第2回の選定委員会で報告を受けた。

今後、県、学校へ採択結果を通知していく予定となっている。

迫田教育長 次に答申説明をお願いします。

選定委員 広島県の選定資料をご覧いただきたい。1ページにある5点の観点「知識及び技能の習得」「思考力、判断力、表現力等の育成」「主体的に学習に取り組む工夫」「内容の構成・配列・分量」「内容の表現・表記」で調査されたものを選定委員会で協議し、結果を答申させていただいている。

なお、教科用図書調査のための見本本の送付がなかった出版社もあり、その出版社については、答申でも斜線を引いている。

今回の選定においては、三次市の児童生徒の実態、課題に応じた教科書はどれであるかということの大前提にして審議を進めた。

答申のポイントとしては、3点。

1点は、三次市の子どもの実態にあった教科書であるかという点。学力が低位の子どもに対する基礎・基本の定着を図れるか、個別最適な学びの実現に結び付くか、主体的な学びとなるよう「やってみたい」と思える写真や課題がある教科書、自主学習などが進んで行える工夫のある教科書であるか。また、若手教員が増えている中、若手、ベテラン教員にとって課題発見・解決学習が行いやすい教科書であるかという点。

2点目。学習指導要領で求められていることに沿った教科書であるかという点。学習指導要領では、資質・能力の育成のために、各教科等の目標を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力」の3つの柱で整理されている。その3つの力を育成できる教科書であるか。また、各教科の見方・考え方が明示されているかという点。

3点目は、三次市の施策と合っているかという点。例えば、「みよし学びの共創プラン」との兼ね合いはどうか。ICT機器の効果的な活用ができるものであるか。グローバル社会への対応、小学校と中学校の接続は意識されているか等を検討した。

迫田教育長 それでは、採択に移る。まず、国語から説明を求める。

選定委員 — 国語の説明 —

迫田教育長 質問、意見等あればお願いします。

小根森委員 文と図を結び付けての解釈について、A者はどこに記載があるのか。

選定委員 A者は、2年生の64ページに記載されている。

小根森委員 文と図を結び付けるほどの内容なのか。

選定委員 その前の説明的文章の中のグラフ、例えば58ページのグラフと説明文章の中の文が結びつきがよいと調査員から報告があった。

小根森委員 「ネコだって推理できる」の文の中には、表がたくさんあって良いということには分かった。

古典の1年生竹取物語について、中学校で初めて古典を扱うわけであるが、注釈が全部下に出ている。横に注釈があったのはB者だったが、すごく分かりやすくて良いと思った。横に注釈があったら勉強しにくいのか。

選定委員 その点については検討していない。

小根森委員 国語の教科書については、どの者もよい。

A者は、情報がたくさん扱ってあるのが、一番良い点と考える。

他にもA者の良い点は、エッセイの挿絵が、文章に沿っており、子どもたちが文章に、入り込んでいく助けになると感じた。

深水委員 A者、B者が良いと思う。

A者と答申にはあるが、1ヶ所わからないところがある。

例えばA者であれば、1年生13ページ。教科書の使い方というのはどの教科書にも載っているが、A者の一番最初のところに「見通す」とあり、「目標と生徒の問いかけを確認し」の「生徒」とは何を指すのか。少し分からない。

選定委員 そこに出てくる生徒のキャラクターが絵になっている。

手引きの下に吹き出しがあって、「オオカミの例からどんなことがわかるだろうか」という、生徒のつぶやきという形で、載せてある。

これが生徒の問いかけということだと捉えている。

深水委員 目次の中で生徒というキャラクターの紹介がされている。読む立場からすると、生徒がリアルな学生・生徒を指しているのか、それともキャラクターのことを指しているのかというところは少し混乱する点である。

それ以外のところは、非常によくできていると思う。漢字のところもよくできている。

また、3年生の合意形成では、例文が非常にわかりやすく書かれていると

ころも良い点である。

C 者の裏表紙に、表紙には抗菌加工をしているという一文が入っている。抗菌加工が何を指すのかが不明なところはあるが、おそらく、表面を滑らかにすることによって、菌の付着を防ぐことを言っているのだと考える。今まで注目しなかった点だが、C 者は全部の教科書に抗菌加工について付記されている。今後はそういう部分も 1 つの要素になってくると思う。

井岡委員 物語文などは、どの者も大差なく、どの者も充実している。

新出漢字の 1 年生を徹底的に見たが、小学校から上がってきた子どもがどう取り組むという視点で見ると、A 者は扱いやすいと感じた。

A 者の情報活用については、よく整理されている。

読書については、B 者が面白いと思う。

A 者が総合的に見て充実していると感じる。

藤井委員 A 者が、全体を通して良いと思う。

個人的には、D 者の教科書の中身にある画像や色使いは、鮮明で他者とは違う内容であり、楽しめる内容になっていると考える。

迫田教育長 三次市の生徒の課題に対応をしているかどうかという観点で見たが、漢字については、A 者の漢字道場という扱い、また、D 者の漢字を身に付けようという扱い方、B 者の漢字に親しもう、C 者も同様の扱いをしている。

短文とか読みという多様な視点から見るときに、B 者の工夫が本市には効果的であると考ええる。

考えを形成する活動、あるいは、文章と図表の関連については、本市の生徒を考えたときには、合意形成のための視点とか話し合いの流れとか、具体例等が、A 者は非常に具体的で、分かりやすいと考える。

図表等との関連については、出版者それぞれに特色があらわれている。特に見通しを立てる構成という面では、新学習指導要領に基づいて、具体的な見通しと振り返り、自己調整というところで考えると、手引きとして、見通す、使う、深める、考えを持つ、振り返るという流れで A 者は丁寧に扱っている。

迫田教育長 他に意見はあるか。

委員一同 一意見なし

迫田教育長 それでは採択に移る。国語は東京書籍でよいか。

委員一同 ー異議なしー

迫田教育長 続いて、書写について説明を求める。

選定委員 ー書写の説明ー

迫田教育長 質問、意見等あればお願いします。

迫田教育長 自学できるということも含め、デジタルコンテンツについて説明がなかった  
ので、特徴的なことがあれば説明してほしい。

選定委員 B者は、左手で書く人の動画が扱われている。

- 動画視聴-

小根森委員 A者が一番良い。次に、B者が良い。A者の良いところは、はらいが3段階  
で扱われているなど、筆圧について細かく示してあるのはA者のみであ  
る。

また、「行書と仮名の調和」では、考えを確かめよう、生かそうというよう  
に、自主性を促しており、書写では見られないスタンスなので良いと思う。

「自分らしい字」ということで、さまざまな人の、直筆を紹介しており、  
字の楽しさを知ることにもつながり良いと思う。

左手を使う人のための内容も充実していると考える。

深水委員 圧倒的にA者一択であると考える。

「自分らしい字」でサインが扱われており、この2ページのみでこの教科  
書を選んでもいいぐらい素晴らしいと感じる。

書写は、自己表現の場であることがよく伝わる教科書である。

他者の教科書を見ると、C者などは典型的だが、「自分の文字をより良くす  
るため」と書かれ、B者では、「文字を書くって何だろう」ということで、  
教科書のテーマ的なものが書かれているが、他の教科書は、正確性が重要  
視されているが、書写である限り、芸術性、自己表現の場として捉えるこ  
とが必要である。それをA者はよく表されている。例えば、「手書きのよ  
さって何だろう」って、自分の字には自信がないが手書きにすることで伝  
わるものがあると示してあり、子どもたちが、ありのままの自分の字でも  
自信を持つことができるという表現はとても良い言葉である。



井岡委員 全体的にバランスよくできているというのは、D者かA者かと考える。  
左上の生徒自身、また、指導者もなかなか書写は難しいが、デジタルコンテンツがあると、本人も分かりやすく、イメージがしやすい。書写は、イメージが大事な教科であり、筆の扱い方、筆圧等について丁寧に扱われている。

常用漢字表を比べたが、常用漢字表は、A者が圧倒的に使いやすい。

藤井委員 A者が良いと感じる部分が多くある。

フォント1つをとっても、さまざまなものがあると教えてくれるのがA者である。

実社会とつながり、刺激になる内容になっていると考える。

迫田教育長 A者が適していると考ええる。

左利きの生徒への配慮、書写ブックとしての別冊の構成、主体的な学びにつながる教科書の表現、デジタルコンテンツの有効な活用について提起しているA者が良いと考える。

迫田教育長 他に意見はあるか。

委員一同 一意見なし

迫田教育長 それでは採択に移る。書写は光村図書でよいか。

委員一同 一異議なし

迫田教育長 続いて、社会（地理的分野）について説明を求める。

選定委員 一 社会（地理的分野）の説明 一

迫田教育長 質問、意見等あればお願いします。

小根森委員 A者が適していると思う。「世界の他の地域から見た日本の位置」として、アジアから見た日本の地図ということで横になって表しているのは、A者のみである。別の国から見ると自分の国はどう見えるのかという視点で考えることも必要と考える。

A者は、デジタルコンテンツが充実しており、生徒の自主的な学習を促すことにつながる。

SDGsに関するページも非常に分かりやすい。

その他で良いと思う発行者は、B者である。三江線が取り上げられていたり、図や表が大きく見やすかったりしたものとなっている。  
A者の方が、地図を作っているだけあり、地図に関わるページが非常にきれいである。

深水委員 最後の索引のところをこだわって見たが、A者が、ゴシックで、しかも赤字を用いて、1つ1つのポイントについて強調されている。

他の教科書を見てみると、索引において、強調がない。

索引をもとに、どこを読めばいいのかが、ある程度示されているのは、A者である。

内容的な部分に触れることは避けたいが、例えば、領土問題についてそれぞれ比較して読んだが、A者が一番中立的な内容であった。

特に、尖閣の問題についても、きちんと外務省の見解を踏まえた上で記述となっているということで、A者が良いと考える。

井岡委員 A者の教科書の中に、各地域、各国の地図が章のはじめに載っているところが、A者らしい。

また、デジタルコンテンツも充実している。

藤井委員 地図とのリンク性があり、分かりやすいのが印象的である。

その他の資料においても、テキスト文と同じように見えて分かりやすいのでA者が良いと考える。

迫田教育長 A者がふさわしいと思う。

本市の課題と言える防災教育に拘って見たところ、A者はさまざまな災害を含めて、情報収集、まとめ等、自分で課題発見解決するという設定があるのが特徴的である。

C者も防災教育の扱いを丁寧に行っている。

全体を通して、本市にとってはA者が適しているのではないかと考える。

迫田教育長 他に意見はあるか。

委員一同 なし。

迫田教育長 それでは採択に移る。社会（地理的分野）は帝国書院でよいか。

委員一同 一異議なし

迫田教育長 続いて、社会（歴史的分野）について説明を求める。

選定委員 — 社会（歴史的分野）の説明 —

迫田教育長 質問、意見等あればお願いします。

迫田教育長 学習指導要領にある「見方」「考え方」について、歴史的分野での扱いの特徴があれば教えてほしい。

選定委員 「見方」「考え方」マークをつけている発行者がある。

各者、まとめのページなども「見方」「考え方」を働かせる工夫がなされ、歴史の時代を比べる、空間、場所で比べるというような「見方」「考え方」が示してある。

A者では上の方に「見方」「考え方」マークがつけてあり、中世と比べて近世にはどのような特色があるか、この時代と時代を比べる、時間を挟んで比べるというような、社会科の視点を「見方」「考え方」マークで示してある。

小根森委員 A者は、1つの項目の中にある図と写真とグラフのバランスが良い。

三次市の課題でもある複数の資料から選び取るという視点からも、図、写真、グラフを見ることを通して思考を深めるという点においては、A者が良いと考える。

B者は、小学校の復習が所々にあり、歴史の学習方法について考える場面がたくさんあるのは良い。

世界と日本について全体を比べながら、地図や写真を見ていくという点においては、A者がバランスがとれている。

深水委員 A者の索引が一番良いと思う。

内容面に関しては、A者は植民地についても、きちんとコラムで説明がなされている。

日露戦争については、A者以外は、日本の勝利という言葉を使っているが、A者は、勝利という言葉を使わず、中立的な見解が示されているところに好感を持った。

A者をぜひ採用してほしい。

今回印象残ったのは、異色であるC者の教科書である。

今までの教科書が当たり前だと思っていたが、読み物としての教科書とい

う可能性があるのかなという気がしている。

普通の教科書は、本文、欄外、コラム、図表があり、読むことにしんどさを感じる。C者の文章として読んでいくという教科書の構成は、ある意味一石を投じたという気がしている。

特に、このC者には全てに行番号が入っており、参照しやすい。

例えば写真が全部ウィキペディアコモンズからの対応であり、それを引用する等、問題点もあると思うが、ある意味異色を放っており、これからの教科書のあり方の1つの考え方の見方という気がする。

ただどちらにせよ、現状においては、A者が一番良いと考える。

井岡委員 それぞれ特徴があるが、A者は、小学校で学んだ主な歴史上の人物をピックアップしたものが非常に見やすく、分かりやすい。

小中の学びをつなげられると考える。また、年表を比べると、A者の年表は、さまざまな工夫がなされている。

小学校との繋がり、世界の動き等は、他者も世界の繋がり、他国との関係については書いてあるが、A者がわかりやすい。

三次市の子どもたちが資料の活用が苦手ということであれば、わかりやすいA者の教科書が適している。

藤井委員 A者が、全体としては良いと思う。

D者も、引けをとっているというわけではなく、子どもにとってもよい資料ではあると見るが、A者の教科書が良いと考える。

迫田教育長 A者が本市には適していると考ええる。

主権者育成の工夫という視点において見ると、どの者も過去の事実、事象にとらわれるのではなく、時系列、推移、比較、繋がりを意識し、現代の社会を見ていく眼を育てるという工夫がなされているが、構成としては、A者が良いと思う。

三次市では寺町廃寺跡という国の史跡があるが、そういった考古学というような視点で考えると、E者は、その宗教感とか歴史を解明するような、学問として取り上げているのは特徴的であるし、面白さがある。

全体としては、A者が良いと考える。

迫田教育長 他に意見はあるか。

委員一同 なし。

迫田教育長 それでは採択に移る。社会（歴史的分野）は日本文教出版でよいか。

委員一同 ー異議なしー

迫田教育長 続いて、社会（公民的分野）について説明を求める。

選定委員 ー社会（公民的分野）の説明ー

迫田教育長 質問、意見等あればお願いします。

小根森委員 A者は、探究学習に向けて各章で準備をしていくというつながりがあり良いと思う。

自分たちで問題解決に向けて考える場面が多いB者も良いと思うが、A者はそこを非常に意識している。

深水委員 A者が一番である。

憲法改正について拘って読んだがA者のものが違憲立法について一番よく書き込まれている。

若干踏み込み過ぎた内容となっており、中立性に欠ける。

憲法改正について、色々な解釈はあり得るが、内容としては、踏み込んだものとなっている。今話題になりやすい憲法改正なので、気になるところではある。

しかし、憲法の保障や違憲審査権について、国民としての取り組みをうまく書き込んでいることに好印象を持った。

井岡委員 「公民の学習とは」という視点で、各者の公民への入り方について見比べたが、A者をはじめ、他者も公民とは、歴史、地理を踏まえての公民という書き方をしていたり、未来に繋がる自分ということで、公民の考え方を書いてあったりした。

公民を学習する全体像が一番わかりやすくしてあるのが、A者であると考ええる。

アクティブ公民というコーナーは、ポイントがおさえられており、学びやすいと感じた。

藤井委員 アクティブ公民の問題が分かりやすく、授業の導入部分には効果的である。

A者が良いと考える。

迫田教育長 全体としてはA者が良いと考える。  
社会参画意識を本市の課題の一つとしているが、その側面から見た時、課題学習が具体的である。また、公共の福祉という視点でいうと、具体的な成果点を例題として、解決策を考えるような社会課題を各者取り上げているが、本市の子どもたちにとって身近な例で一緒に考えることができるのは、A者である。

迫田教育長 他に意見はあるか。

委員一同 なし。

迫田教育長 それでは採択に移る。社会（公民的分野）は帝国書院でよいか。

委員一同 ー異議なしー

迫田教育長 続いて、地図について説明を求める。

選定委員 ー 地図の説明 ー

迫田教育長 質問、意見等あればお願いします。

小根森委員 断然A者が良いと考える。

地図の高低差がはっきりと分かり、見やすい。また、「地図で発見」のように考察するヒントがたくさん掲載されている。

写真、グラフ、図が豊富である。

A者の索引は歴史や公民などの表示があり、歴史や公民と関連づけて学習ができる。

A者は完成されたものである。

深水委員 A者がよく出来上がっている。

網目加工されている定番の表紙の地図帳であるが、3年間使うということにおいては、丈夫かもしれないが、抗菌を今後考えていく必要があるのではないかと。

平準化されている方が、抗菌面ではいいのではないかと考える。

内容面においては、圧倒的にA者と考える。

井岡委員 A者が見やすく、見取りやすい。

ポイントごとに扱われている資料が非常に読みやすい。

本市の子どもたちの課題が資料を読み取ることというのであれば、子どもたちの学習の促進に繋がると考える。

藤井委員 私も見慣れたブルーの表紙と、中身の見やすさがA者の定番と考える。  
2者を比べた結果、A者が良い。

迫田教育長 A者がふさわしいと考える。  
B者は、デジタルコンテンツが全体を通して充実していることが特徴的である。  
一方で、小学校との接続を意識した使い方、様々な一般図、地形図、鳥観図、主題図という種類別の見方が丁寧に抑えられているところは、A者の強みであると感じる。  
A者が良いと思う。

迫田教育長 他に意見はあるか。

委員一同 一意見なし

迫田教育長 それでは採択に移る。地図は帝国書院でよいか。

委員一同 一異議なし

迫田教育長 続いて、数学について説明を求める。

選定委員 一 数学の説明 一

迫田教育長 質問、意見等あればお願いします。

小根森委員 A者がよいと考える。「ふり返しレポート」や「考えてみよう」など、導入から章末にかけて様々な考え方ができる点が良いと思う。  
また、B者も考えを文章にする問題があり、様々な考え方ができるという点でよいと思う。

深水委員 A者は基礎力をつける点で良いと思う。導入の説明から例題、問題、節末の問題と流れが良い。また、デジタルコンテンツが多い点も良いと思う。  
しかし、淡々としており、その点ではC者は254ページから入試問題が入っており、おもしろいと思う。  
三次市の基礎力重視の観点ではA者が妥当だと考える。

井岡委員 A者の見方・考え方という視点がよい。また、「数学のまど」で学習と関連のある問題や資料がのっており、学習内容とのつながりが学べて良いと思う。  
C者の章末の入試問題は良いと思う。

藤井委員 A者はシンプルで良いと思う。また、デジタルコンテンツが充実している。

教 育 長 どの者も工夫している。A 者は、最初の問いで十分に説明されており、節が変わっても条件を使って解くことができ、一貫して進めることができる。また、デジタルコンテンツとのつながりがよくできており、自分で繰り返し学習ができる。本市の実態にもあっており、A 者が適していると考ええる。

迫田教育長 他に意見はあるか。

委員一同 なし。

迫田教育長 それでは採択に移る。数学は東京書籍でよいか。

委員一同 ー異議なしー

迫田教育長 それでは、理科について説明を求める。

選 定 委 員 ー 理科の説明 ー

迫田教育長 質問、意見等あればお願いします。

小根森委員 最初に全部の教科書の見開きを見たが、見開きで良いと思ったのは、A 者のものである。科学としてわくわくするような見開きは、さすがであると感じた。しかし、全体には B 者のものが良い。理科、科学の進め方、目的・準備・方法・結果・考察と、どの教科書もその手順が押さえられているが、特に B 者には、準備が大事であるという視点が押さえられている点が良い。また、図や写真も大きく、分かりやすく綺麗である。

深 水 委 員 デジタルコンテンツについて、A 者、B 者は少し限定的な印象をもつ。答申の中では、充実しているという回答であったが、教科書を主として、デジタルコンテンツを従として考えると、非常に充実している点もあるが、独立したものとして考えると少し弱い。デジタルコンテンツだけを考えると C 者が非常に意欲的であるが、内容が現段階では一部のみの限定公開である。審査する上で、限定公開では困る。ただ、内容的には非常に面白いところがあり、今後、質問を AI で答えていくといった企画は可能性を感じるが、現状では選びにくいと考える。

井 岡 委 員 A 者、B 者もなかなか面白く、良いなと思ったが、C 者のじっくり探究というのは興味深い。それから、D 者のつながるページ。これは、同学年、他教科との関連というところを示しており、学習しやすいと感じた。E 者は、重要語句を分かりやすく欄外に示していた。また、「私のレポート」とし



て、レポートの書き方を示してあるのは子どもたちにとって抵抗なく導入しやすいと感じた。

藤井委員 A者、B者の内容がすごく見やすいと思っていたが、答申にあるように、C者も字の大きさが若干大きく、配置も見やすいため、C者がよいと思う。

迫田教育長 本市の生徒の観察や実験結果を基に考察する力や基礎的な知識・技能についての確実な定着といった課題を視点に見たが、A者は、単元末に丁寧に重要用語や基本問題、活用問題、発展題材まで十分活用できるような中身がある。また、文字、字感が非常にわかりやすくレイアウトされていると思う。観察実験の技能習得についても丁寧にわかりやすいので、例えば、自分で振り返る、或いは予習をしていくといった時には、非常に内容が確認しやすい、見やすい。B者は、いわゆる計画活動、観察実験の計画活動や結果分析と解釈について非常に丁寧に、大事な部分がしっかり書き込まれていると感じた。C者も同じように問題、課題、仮説、計画、そして結果考察というところで、しっかりとした流れで確認ができる中身になっているため、授業でそうした部分を活用することで、生徒の課題に応えられると思う、C者のものが良いと判断した。

迫田教育長 他に意見はあるか。

委員一同 一意見なし

迫田教育長 それでは採択に移る。理科は教育出版でよいか。

委員一同 一異議なし

迫田教育長 続いて、音楽（一般）について説明を求める。

選定委員 ー 音楽（一般）の説明 ー

迫田教育長 質問、意見等あればお願いします。

小根森委員 デジタルコンテンツの充実は、音楽にとって、とても大事なことである。A者で良いと思ったのは、オペラなどのところに年表がついており、どれがバロックなのか古典なのか、ロマンなのかと分かるようになっている点であるが、三次市の生徒の実態を考えるとB者の方が良いのではないかと思う。

深水委員 デジタルコンテンツが本当に良いと思う。A者でよろしいのではないかと

思う。

井岡委員 デジタルコンテンツでいうと、A者は、「カラピアノ」が巻末にあり、グループ、或いは個人で練習しやすい。速度調整もできるということで、これは絶対的に良いと思う。それと、「モルダウ」であるが、演奏する、聞くといっても、情景や背景的なことを子どもたちはイメージできない。実際に見ているわけでもないのに、そこらを想起させるには、B者の記述内容が良いと感じた。

藤井委員 2者を比較した時、A者の方が教科書らしい。テキストであるが、色々と散りばめられており、目に入ってくるもの、クオリティというものが、しっかり存在していると思う。

迫田教育長 学習指導要領には、音楽を形づくっている要素とその働きの視点でとらえるということが示されているが、そういう意味でいうとA者は、鑑賞の内容、例えば、音楽を形づくる要素について、音色、旋律、テクスチャ、強弱、形式でしっかり示されている。やはり、しっかり学ぶという視点と、音楽的な中身として音楽をどのように捉えるか、その楽しさ。そういった部分も網羅されているという特徴を感じた。

迫田教育長 他に意見はあるか。

委員一同 一意見なし

迫田教育長 それでは採択に移る。音楽（一般）は教育芸術社でよいか。

委員一同 一異議なし

迫田教育長 続いて、音楽（器楽合奏）について説明を求める。

選定委員 一 音楽（器楽合奏）の説明 一

迫田教育長 質問、意見等あればお願いします。

小根森委員 巻頭を比べると、世界が広がっているものはA者と感じた。そして、目次のアンサンブルの箇所では、子供たちが楽しんで音楽、器楽を学び、興味を引くことができるのではないかと感じた。デジタルも充実しており、A者でよいと思う。

深水委員 私もA者でよいと思う。細かな点で言うと、最後のギターのコード表がイラストで表現されており、わかりやすい。指の写真よりイラストの方が、

しっかりとどう押さえるのか、そういったところの丁寧さ、優しさというところについてこちらの方が良い。

井岡委員 A者は、上から映してある写真、構え方が示されている。横、前面からだけでは、座り方も伝えづらいため、よりリアル性がある。姿勢と礼儀ということもポイントに書かれており、やはり日本文化に対する内容も充実していると感じたので、A者で良いかと思う。

藤井委員 琴、箏のこともしっかり書かれており、日本の文化というものがしっかり伝わってくる内容だと思うので、A者がよろしいかと思う。

迫田教育長 私もA者の方がよろしいと思う。何よりデジタルコンテンツの圧倒的な優位性、広がりを感じる。ただ、リコーダーを日常的に、導入で使うため、アルトリコーダーとソプラノリコーダーの扱いについては、むしろB者の方が、丁寧に扱われているという印象をもった。しかし、全体を通して見た時には、A者のもので良いと思われる。

迫田教育長 他に意見はあるか。

委員一同 一意見なし

迫田教育長 それでは採択に移る。音楽（器楽合奏）は教育芸術社でよいか。

委員一同 一異議なし

迫田教育長 続いて、美術について説明を求める。

選定委員 一美術の説明一

迫田教育長 質問、意見等あればお願いします。

小根森委員 デジタルコンテンツを見たが、本当にA者は素晴らしいと思った。掲載されている作品についても、どれも魅力的で、しかも実物大で示してあったりする物もあり、わくわくするような作りである。特に、生徒作品についても、良い物が載っている印象を受けるため、A者で良いと思う。

深水委員 どれもレベルの高い出来上がりだと思う。印象とすれば、A者の写真が一番綺麗であると感じた。特に、真ん中に風神雷神図があったが、非常に綺麗に色がよく出ている。また、A者は、資料集が別に付いており、使いやすと思う。一方、B者は、非常に意欲的であり、表紙だけでもある意味すごく面白い。絵の具の盛り上がりといったところが、視覚だけでなく、触覚で感じるができるということで、非常に可能性を感じるが、現状

ではやはり A 者であると思う。

井岡委員 鑑賞教材の内容が非常に充実しているのは、A 者であると思うが、B 者も日本の絵画というところで紙の質が違うため、すごく工夫されている。子どもたちもこういう物を実際に見る機会は少ないので、これは良いなと思った。それから B 者の暮らしを彩る文様というところもなかなか面白い。総合的に A 者の方が写真や教材が良いと思う。

藤井委員 私も A 者の教科書で良いと思う。資料も先生方が扱いやすく、生徒にとっても刺激になるのではないかと考える。

迫田教育長 本市は特徴として美術館が 4 館ある。そのため、しっかり鑑賞できるという力を育てていくということもしていきたい。そうした中、やはり A 者の別冊資料は、非常に有効になる。もう一つ思うのは、A 者の教科書の一番最後に、1 学年では美術鑑賞としての手がかりを丁寧に扱っており、どのように鑑賞を楽しむことができるか、鑑賞の際の印象を表す言葉や気持ちを表す言葉という具体が示されている。自分だったらどのように見るだろうかということが示されており、本市の特徴を生かした美術の学習にもつなげることができる中身であるというように思い、見させていただいた。

迫田教育長 他に意見はあるか。

委員一同 一意見なし

迫田教育長 それでは採択に移る。美術は光村図書でよいか。

委員一同 一異議なし

迫田教育長 続いて、保健体育について説明を求める。

選定委員 一保健体育の説明一

迫田教育長 質問、意見等あればお願いします。

小根森委員 特徴が多いのは A 者と説明されたが、これまで各者について説明されたことは、それぞれの教科書の特徴で、他にはない特徴と捉えてよいか。

選定委員 全部そうであると言い切れるものではないが、それぞれ特徴的なものを取り上げ説明した。

小根森委員 比較説明ではなかったのですが、同じものに対して比較してもらえるとわかりやすい。特徴が多いのは、A 者であるというようには理解できた。

迫田教育長 基本的にこうした点に差がみえるとか、こういったところで A 者が非常に

推薦できるということがあれば教えて欲しいという委員の質問であったように思う。そういう視点で、今回の調査研究を踏まえ、答申の中で説明していただけるようなものがあればお願いします。

選定委員 話し合う活動については、主体的な学びにつながりやすいということで、A 者が特徴的である。

迫田教育長 それを踏まえて何かあるか。

小根森委員 写真や絵、グラフがわかりやすい。何を学ぶのかがしっかり自覚できる仕掛けがあり、学習方法について詳しい説明があったのは A 者である。

先ほども主体的な学びができるというように言われたが、その点において私も A 者がよいかと思う。

深水委員 私は、薬物の扱いについて拘り読ませてもらった。薬物のところだけを見る限りでは、A 者、B 者がよいと感じた。例えば、薬物乱用と健康というところであるが、どちらも現代的なテーマが取り上げられているなという印象をもった。特に B 者に関しては、大麻は危険ということで、最近マスコミ等で大麻の解禁論みたいなことが言われる中、やはり危険ですよということをしつかり押さえられている点は、非常に大切であると感じた。A 者では、友達からサプリとしてもらった時どうするかといった問題提起があり、まさに主体的にといったところが、「学びに生かす」というコーナーで示されており、非常に現代的なテーマだと思う。取り上げられている薬物に関しても、危険ドラッグといった物も同列に扱われているといったところが非常に良いと感じた。

井岡委員 説明を受けた中では、「学びを生かす」であるとか、「ウォームアップ」というところが、子どもたちが課題を掴んで学習するのに主体的な学びにつながるポイントであると感じた。

藤井委員 A 者の方が細かいところの説明、要点について、言葉や矢印、拡大図、画像などを用いながら示されており、わかりやすい。

迫田教育長 特に良いなと思うのは、いわゆる今日的な課題について、例えば先ほど薬物のことがあったが、今回、コロナウイルス感染症というものがあり、その感染症で見た時に、課題があつて説明があるところまでは一緒だが、「エクササイズ」、つまり、「自分のクラスが閉鎖になった、症状がない場合ど

のように過ごすか」,「なぜそうなるのか交流しよう」のような,自分事になる問いが,非常にA者の場合はしっかり問われている。つまり,自分事のできる部分の問いや「エクササイズ」など,そこをきちんと踏まえて活用するという点は,共通的にずっとあるので良い。それから自然災害についても,保健体育で扱う分野だが,そこを見た時にも,やはり避難時の留意点とか,避難情報レベルとか,タイムラインの作成とか,基本的に中学生が知っておくべき基本的な知識をコンパクトによくまとめているのはA者である。

迫田教育長 他に意見はあるか。

委員一同 一意見なし

迫田教育長 それでは採択に移る。保健体育は学研でよいか。

委員一同 一異議なし

迫田教育長 続いて,技術・家庭(技術分野)について説明を求める。

選定委員 一 技術・家庭(技術分野)の説明 一

迫田教育長 質問,意見等あればお願いします。

小根森委員 A者は広い視野を持っている。

ロボットやこれからの医療について取り扱われており,良いと思う。

三次は,農業が主な産業でありが,農業経営している方は,地域の状況ニーズに合わせた野菜の栽培が一番大事と言われている。A者にはこの視点がきちんと記載されている。

深水委員 情報モラルの内容において,A者がメディアリテラシーについて踏み込んだものとなっている気がした。

例えば,書籍とインターネット情報との違い,安易な情報の拡散が影響といった記述は,他者では,あまり見られなかった。

B者と比較すると,B者は,セキュリティとモラルが中心で,技術的な話になっており,リテラシー的な内容にあまり触れていない。

以上から,A者の特徴として良いところである。

井岡委員 総合的に見て,A者は非常に丁寧な説明が多いと感じた。

B者も「スキルアシスト」があり使いやすくなっていて,良いと思うが,

A 者は、振り返りシートがあったり、まとめのページもあったりして使いやすい。

藤井委員 A 者は、踏み込んだところまで表現されている傍ら、文字の大きさもやはり見やすい配列となっていることから、A 者が評価できる。

迫田教育長 A 者で、良いと思う。

特に、ものづくりという視点で言うと、ものづくりは材料加工、農業においては栽培という側面があり、見通しを持つことが大切であり、それを丁寧に掲載されているのが特徴である。

実習例もかなり豊富に掲載されている。

プログラミングの内容を比較して見たが、題材例が非常に豊富であるのが A 者である。

実際に子どものニーズや実態に応じて、どうプログラミング教育を充実させるのかという際に、参考になる部分が多く記載されているのが特徴である。

技術分野においては、デジタルコンテンツの部分をもっと活用できる分野だが、教科書に載っていないなくても、現代は、動画等を視聴することができることを考えると A 者をしっかり活用しながら、学ぶということが適切であると考えます。

迫田教育長 他に意見はあるか。

委員一同 一意見なし

迫田教育長 それでは採択に移る。技術・家庭（技術分野）は開隆堂でよいか。

委員一同 一異議なし

迫田教育長 それでは、技術・家庭（家庭分野）について説明を求める。

選定委員 一 技術・家庭（家庭分野）の説明 一

迫田教育長 質問、意見等あればお願いします。

小根森委員 身近なポイントから考える、日常生活をテーマにするというのは、家庭分野にとって一番大事なことと思う。それを重視しているのは、A 者である。A 者のデジタルコンテンツがあまり良いとは言えないと思ったが、調理の動画とかは良かった。また、和服についても詳しく記載されていて良いと感じた。

深水委員 消費者契約というところを中心比較したところ、A者は、売買契約、クーリングオフについて見開き2ページで、一括して扱われており、分量は少ない気がするが、非常に分かりやすい構成である。

オンラインゲームでの支払いが扱われていたり、中学生なりに、自分の身近なところで考えたりするという内容、構成となっている。

井岡委員 A者は、和服についての記載が多い。浴衣のたたみ方、Tシャツのたたみ方が扱われており、和と洋のたたみ方を知らないと子どもたちにとっては効果的である。また、帯の結び方等も扱われており、子どもの興味を引くと考える。

幼児の遊びや発達についての内容でいうと、B者は、幼児との関係生活等、丁寧に記載されていて面白さはあったが、全体的に見て資料の多いA者が良い。

藤井委員 A者は、生活を中心として、身の回り全般の内容が細かく記載されている。

迫田教育長 A者が良いと思う。

身近な題材が扱われていることや、丁寧に分かりやすい写真等の掲載となっている。

生活の一番基本となる食べるということにおいて、調理を誰もが自分で行えるようになるという視点で各者並べてみたところ、A者が一番分かりやすいと感じた。

迫田教育長 他に意見はあるか。

委員一同 一意見なし

迫田教育長 それでは採択に移る。技術・家庭（家庭分野）は開隆堂でよいか。

委員一同 一異議なし

迫田教育長 続いて、英語について説明を求める。

選定委員 ー 英語の説明 ー

迫田教育長 質問、意見等あればお願いします。

小根森委員 三次の子どもたちは、テストにおいてどのようなところに課題が見られるのか。例えば、三単現が出来ていないとか、be動詞と一般動詞が区別できていないなど。



選定委員 具体的にどの文法に課題が見られるのかについては、今すぐお答えはできないが、文の語順を理解する、そして、それを正確に書くというところに課題がある。

小根森委員 私もそこが少し気になっている。A者は、最初に be 動詞、一般動詞というように順にまとまっている。しかし、あとの者は、全て最初から文章の中に、be 動詞、一般動詞、疑問文、否定文が出てきており、巻末にグラマーのまとめがあるが、中学1年生の時からそれでは、混乱するのではないかと思う。中学1年生の時には英語をやはり、四本線の中にきれいにきちんと書いて欲しい。教科書の中には4本線が書いていなかったりする。そういうところをやはり指導の上で、準備するなどしていただければと思う。B者は、フォニックスも充実しており、ワークがあるということでよいと思うが、これから子どもたちの力をつける時に、もうちょっと子どもたちに入りやすい学習の仕方を考えてやらないと、いろんなことがいっぺんにきて、アウトプットしなさいという時には、やはり、できにくいのではないかとすごく感じる。

深水委員 A者を最初読んだ時に、文法的な説明が薄いという気はずっとしていたが、改めてよく見てみると、巻末にしっかり丁寧に書いてあるというところがある。特に、3年生の場合でみると、英語の仕組みが出てくる。また、時の表し方、時制のことについて非常に丁寧に書いてあると思う。また、1年生の時にも、英語の仕組みのところには、不定冠詞と定冠詞の使い分けについての説明も丁寧にしている気がする。改めてしっかり読んでみると、そうした本文の部分と文法的な部分で分けているということで好印象。逆に、分けているということで、これは巻末付録なわけで、授業過程の中で、どのようにこれを取り入れていくかというのは、実際に使われる中での課題ではなかろうかと思う。

井岡委員 A者は、非常に読みやすく、いろんな情報が入り過ぎていない。シンプルなものが良いか悪いかは分からないが、今の子どもたちの実態を聞くと、子どもたちに合っているという気がしてきた。子どもたちの苦手意識がある部分の領域や分野を聞いたらこれで良いと思う。

藤井委員 私も同じ意見でA者の教科書で良いと思う。

迫田教育長 ゴールの設定ということで、到達度の確認と振り返りが丁寧にされているのがA者の特徴であり、着実に本市の子どもたちの課題に対応していくことができるというように見させてもらった。一方、英語なので、デジタルコンテンツをいかに有効活用できるかということもあろうかと思う。その中で言えば、B者は、導入のやりとりを本文に掲載しており、読む部分がしっかりと見える。視覚と発音が一体的になっているというところは、非常に有効な部分である。もう1つは、話す・書く。そういった部分をアウトプットとして、しっかり取り上げて応えていくといったところを優先的に考えた時、A者を使ってしっかり活用していくといったところで良いと感じた。

迫田教育長 他に意見はあるか。

委員一同 一意見なし

迫田教育長 それでは採択に移る。英語は光村図書でよいか。

委員一同 一異議なし

迫田教育長 続いて、道徳について説明を求める。

選定委員 一 道徳の説明 一

迫田教育長 質問、意見等あればお願いします。

小根森委員 A者は、いじめに関するページがとてもよいという印象がある。また、移植手術のドナーの話についても深いものがある。B者の考察についても、とても素晴らしいものがある。例えば、「考えよう」というコーナーもなかなか良いと感じる。例えば、1年生で言うと、見方を変えて考えよう、つなげようというように、何か考え方を広げていく工夫がなされている。このように展開しているところが、なかなか良いなというように感じた。ただ、B者に関して言えば、いじめについてちょっと薄かったのかなというのが印象。

深水委員 A者は、前回の選定の時にも少し申し上げたのだが、ノートが付いていることが良いのか悪いのかということが非常に印象に残る。ノートも教科書の一部だから、使わないことにはカリキュラムの未消化になってしまうという問題もあり、それが逆に意味ガイドラインになって、先生として

は進めやすいところもあるかもしれないが、一方では、それが負担になってしまうのではなかろうかというきらいも感じる。その部分をうまく消化していただければ良いのではないかと思う。

井岡委員 ノートについて、使う・使わないといったことはあろうかと思うが、使いつ方だと思うので、これは進めやすいという考えを持った。もう1つは、現代的な課題、やはりこれは教材を見た時、A者が良いと感じた。

藤井委員 A者の教科書で良いと思う。あまり目移りしないというか、書いてあることを率直に吸収していくのにシンプルな作りになっている。

迫田教育長 6者とも同じ教材を扱っているもので比較をした。先ほど取り上げられた「足袋の季節」がその一つである。学年は少し違うが、やはり道徳を授業として考えた時に、発問をどう考えるのかという点は、肝である。そういった点で考えると、そこまで違いはないが、その多くは、「どんな思いであっただろうか」という理由を尋ねているが、子どもによっては、その理由や思いは、なかなか答えられず、うまく思考しにくい子どももいるといった実態が一方としてある。そういう中でA者は、「何に対して涙を流したのだろう」と、つまり、whyではなくwhatを聞くというような視点が発問の中に見えるというのは非常に特徴的である。そういう形での問いかけを取り上げられているというのは、1つ具体的なよさとして捉えられると思う。あわせて道徳ノートも先ほどから議論があるが、やはりどういう思いを持ったか、或いは感じたか、考えて議論をしていくかという時に、自分自身がどう考えるかというところへ繋いでいくという手立てとして、うまく活用できる可能性がある。例えば、若い教員もいるし、ベテランもいる。そういう中で、しっかりその活用を考えながら授業づくりには繋がれるというように思うので、A者で良いのではないかと判断した。

迫田教育長 他に意見はあるか。

委員一同 ー意見なしー

迫田教育長 それでは採択に移る。道徳は日本文教出版でよいか。

委員一同 ー異議なしー

迫田教育長 以上で、議案第22号の、令和7年度に三次市内中学校で使用する教科用

図書についての採択を終了する。

それでは、採択結果の確認を事務局にお願いします。

学校教育課長 (採択の確認)

- 国語 東京書籍
- 書写 光村図書
- 社会（地理的分野） 帝国書院
- 社会（歴史的分野） 日本文教出版
- 社会（公民的分野） 帝国書院
- 地図 帝国書院
- 数学 東京書籍
- 理科 教育出版
- 音楽（一般） 教育芸術社
- 音楽（器楽合奏） 教育芸術社
- 美術 光村図書
- 保健体育 学研
- 技術・家庭（技術分野） 開隆堂
- 技術・家庭（家庭分野） 開隆堂
- 英語 光村図書
- 道徳 日本文教出版

以上

迫田教育長 それでは、選定委員は退出をお願いします。

—選定委員退室—

迫田教育長 それでは、傍聴人は退出をお願いします。

—傍聴人退室—

議案第23号 令和7年度使用特別支援学級教科用図書の採択について  
(児童生徒が使用する教科書採択に係る案件のため非公開)

議案第24号 三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定委員会委員の委嘱（追加）について  
（人事に係る案件のため非公開）

迫田教育長 これをもって本日の会議を終了する。

終了時間 15時50分